

## 史跡若松城跡 / 徳川幕府への忠誠

武士の生活は、武士道(戦士の道)として知られる道徳的な行動規範に基づいていました。忠誠心、勇気、礼儀、慈悲、儉約、名誉などの価値観が非常に重要視されました。武士は一枚岩のグループではなく、調査によると、彼らが住んでいた時代や地域に応じて、彼らのライフスタイルには多くのバリエーションがあったことがわかります。しかし専門家は、会津武士が武士道を最高度に保持したことであります。侍精神の例は今でも会津若松に見られ、住民は文化遺産を非常に誇りに思っています。

### 正しい生き方

会津武士は「義に死すとも不義に生きず」をモットーに生きていました。これは、18世紀後半に書かれた会津藩の軍隊に関する2セットの規則に反映されています。1セットはリーダー用で、もう1セットは部隊用でした。規則は、女性、子供、高齢者に危害を加えないこと、敵の家、田んぼ、動物を破壊しないことなど、市民の人権を尊重することを求めています。

会津武士は、日常生活においても道徳を守ることに専念していました。彼らはまた、茶道、詩、書道、武術、乗馬、剣術などの文化活動についても十分な教育を受け、知識が豊富でした。保存状態の良い会津若松の史跡を訪れば、武士の精神についてさらに知ることができます。

### 日新館

10歳から17歳までの会津藩士の子弟を養成するためのこの学校は、1803年に会津で設立されました。生徒は、大名に仕える人生のために精神的、肉体的に準備するための総合的な教育を受けました。鶴ヶ城の近くにあった日新館は、当時の主要な教育機関と見なされ、会津武士から学ぶことを熱望する他の藩の訪問さえ受け入れました。6歳から9歳の男子は入学をする前から、「武士の規範」を学び、他者を尊重し、自分の行動に責任を持つことを基本としていました。このルールは、今日でも会津若松の教育の中核として教えられています。日新館は戊辰戦争(1868～1869年)で破壊されましたが、1987年、10キロ離れた会津若松市郊外に忠実に再現されました。

### 白虎隊

戊辰戦争(1868-1869)で戦った約300人の軍隊です。主に、戦争によって教育が中断される前に日新館の学生だった15～17歳の少年で構成されていました。ある戦闘中、1つの部隊の20人のメンバーが飯盛山の近くで残りの部隊から切り離されていることに気づきました。山に登った後、彼らは下の町から煙が上がっているのを見て、鶴ヶ城が幕府軍に落とされたのだと思いました。煙は実際には近くの家から来ていました。少年たちは最終的に、敵に降伏するのではなく、自ら命を絶つことを選びました。一人の男の子は通りかかった女性に助けられて生き残りました。これらの十代の武士たちの墓は飯盛山にあります。

## 会津武家屋敷

会津武家屋敷は、会津家の最高顧問で戊辰戦争（1868年 - 1869年）の戦闘員であった西郷頼母（1830年 - 1903年）の邸宅を基に、慎重に復元された武家屋敷（武家屋敷）を中心としています。妻の千重子（1835-1868）は、戦時中、5人の娘や他の家族の女性とともに実家に滞在しました。差し迫った敗北のニュースが彼らに届くと、女性たちは敵による捕獲に直面する代わりに命を落としました。千重子は、自らの幼い娘たち3人を刀で殺し、10代の娘たち、2人の妹、義母と共に自らも命を絶ちました。

## 新島八重

新島八重（1845-1932）は、会津で最も有名な女性の一人です。彼女は父から銃の使い方を教えられ、1868年秋、会津の戦いに参加しました。会津軍が1か月におよぶ包囲戦の後、新政府軍に包囲された時、八重は鶴ヶ城への愛を表すために詩を書いたと言われています。

明日の夜、どこから誰かがここを見つめるだろう 月明かりに照らされた私の城

八重は戦争を生き残り、女子高等教育の提唱者となりました。鶴ヶ城には彼女の像と彼女の業績に関する展示品が展示されています。